

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、新規の検査拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [25427] 尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)

受託開始日

- 平成24年4月2日(月)

尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)

脂肪酸結合蛋白(FABP)は脂肪酸などと可逆的に結合する組織特異的な細胞質内蛋白で、現在では9つのアイソフォームが知られており、各々が最初に発見された臓器により、心臓型(H-FABP)、肝臓型(L-FABP)などと命名されています。

腎臓ではL-FABPは近位尿細管上皮細胞に、H-FABPは遠位尿細管に発現しており、L-FABPは糸球体で濾過された遊離脂肪酸と結合して細胞内の脂肪酸の恒常性を保つなどの働きがあり、エネルギー代謝や脂質代謝に関与していると考えられています。

しかし、腎臓が微小循環障害などにより酸化ストレスを受けると、遊離脂肪酸は過酸化脂質へと変換され、細胞毒性を持つ過酸化脂質とL-FABPは結合して細胞外に放出され、さらに尿中へ排泄されます。すなわち、通常腎機能マーカーが傷害を受けた結果を表すのに対し、L-FABPは尿細管に負荷されたストレスの程度を反映する新しい腎機能マーカーといえます。

また、L-FABPは糖尿病性・非糖尿病性を問わず腎障害の早期から高値になり、急性腎障害(AKI)でも有意に上昇すると報告されています。さらに、間質尿細管傷害の程度を反映し、軽度・中程度の群に比べ、重度の場合は尿中への排泄量の有意の増加が認められており、また食事や運動の影響も受けず、日内変動も認められないため採尿時間を選びません。

L-FABPは糖尿病性腎症を含む慢性腎疾患(CKD)の尿細管腎障害の程度の把握や進行の予測および治療効果の判定に有用と考えられます。

検査要項

項目コード	25427
検査項目名	尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)
検体量	尿 1.0mL
保存方法	凍結(-20℃以下)
検査方法	EIA法
基準値	8.4 $\mu\text{g/gCr}$ 以下 ^{※1}
所要日数	3~9日
検査実施料	210点 ^{※2} (D001-「13」尿中特殊物質定性定量検査) ^{※3}
判断料	34点(尿・糞便等検査判断料)
定価	6,200円
備考	※1: クレアチニン補正值($\mu\text{g/gCr}$)及び濃度(ng/mL)をご報告します。 濃度が3.0 ng/mL 未満の場合は、3.0 ng/mL を用いてクレアチニン補正し、未満を付記してご報告致します。 ※2: 検査適用条件 原則として3月に1回に限り算定する。 ただし、医学的な必要からそれ以上算定する場合には、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。 ※3: 平成24年4月1日より、準用区分がD001-14から13に変更となります。

参考文献

池森(上條)敦子, 他: 医学のあゆみ, 239(9), 918~919, 2011.